

# 幼児期のお手伝い

— 家事行動への興味と親の対応についての調査から —

池山和子・田之浦京子

(1993年10月15日 受理)

The House-keeping by Infant

— The investigation about Infant' Interrest for House-keeping  
Behavior and How Mother deal with —

Kazuko IKEYAMA, Kyoko TANOURA

## I. はじめに

近年の子供の生活の変化の一つに家の手伝いをしなくなったことが挙げられている。3, 40年前に出版された当時の子供の生活を表した本をみても、子供たちが家庭の労働力の一部として家事だけでなく様々な仕事に関わり、幼児も野外で年長児の後について、食料や肥料あるいは燃料となるようなものを遊びとも仕事ともつかず集め、家庭に持ち帰って家事労働に加わっている様子を知ることができる<sup>1)</sup>。そのころの日本では、社会全体にそうした雰囲気であったというだけでなく経済的にも子供の働きを必要としていた家庭が多かった社会事情もあり、子供が仕事をするということについては、子供本来の学習や発達を妨げてしまう否定的な側面が問題としてより意識されていたようである。現代では社会事情が変わり家庭が子供の労働を当てにしなければならないといったことはなくなってきた。しかし現代でも各家庭では何らかの形で子供に手伝いをさせたり、させたいと考えている家庭が多い。こうした場合手伝いはしつけの一環として考えられているようである。無藤ら<sup>2)</sup>は、現代の子供の手伝いを含めた労働について、①親は愛地的、道徳的観点に立った文化的信念のもとに子供に「手伝い」をさせている、②これまでの研究では、手伝いと一般に手伝いの意義として考えられているような責任感の育ちとの関連は得られていないが、手伝いの量と愛地的な性格との関連は得られている、③現代では特に年少の子供の「仕事」はますます減る傾向にあるが周囲の配慮によって手伝い経験の中から子供に好ましいものを得させることも可能であり、また、その好ましいものを手伝い以外の経験によって得させることができるかどうかについては検討が必要である、と考察している。

これまでの子供の手伝いに関する調査では、手伝いを親の側から子供に与える・させるものという観点にたち、手伝いの内容や実行のされ方や親の意識といったものを小学生を対象に調査したものが多<sup>3)</sup>。しかし子供の生活を幼い時期からみていくと、幼児期は大人のすることを盛んにまねする時期であり<sup>8)</sup>、その中には当然家事のまねすなわち手伝いあるいは手伝いの萌芽とも思える行動がみられる。今回の予備調査として10名の母親にそれぞれの家庭での幼児期を中心とした手伝いに関する経験を語ってもらったが、その中でも幼児期に子供から盛んに家事に手をだしたがる時期があり、そうした自発的な行動をその場で拒否してしまうとその後しようとしなくなってしまう、そうした経験から下の子供ではできるだけさせるようにしたといった発言もあった。子供の自発的な行動を阻止することは意欲へマイナスの影響を及ぼすことになる。こうした点を考えると、子供の手伝いについて検討するためには、身の周りで行われている大人の仕事すなわち家事へ興味を持ち始める幼児期から実態や自発的にしたがることに対する周囲の対応の仕方を検討していくことが必要である。日本の手伝いに関する幼児期の調査は数が少なくこうした検討を充分行えるには到っていないと感じられる。そこで今回は、手伝いとして形をなすかなさないかの時期であり、大人の対応にも幅があると思われる幼稚園年齢の子供について、家事への興味の持ち方と親の対応、また親の手伝いへの意識を調査した。

## Ⅱ. 方 法

幼稚園に在園する幼児の保護者に対して質問紙調査を行った。

- (1) 調査対象：鹿児島市内の3幼稚園園児の保護者354名
- (2) 調査時期：昭和62年11月～12月
- (3) 調査方法：各幼稚園を通じて質問紙を配付、回収した。
- (4) 質問紙の内容：①予備調査から幼児が自発的に興味を持つと思われる13の家事を挙げ、それぞれについて、1) したがる程度－・現在よくやりたがる、・時々やりたがる、・以前よくしたがる、・今までしたがる様子はなかった、2) したがる時－・自分からやりたがる、・親がしている時にやりたがる、・両方ある、3) 親の対応－・やらせる、・できる範囲でやらせる、・あまりやらせない、・やらせない、の選択肢を挙げ回答を求めた。更にそれぞれの家事についてその子供が特に興味を持っている点や具体的な様子について自由記述回答を求めた。②1) 現在の分担とその実行の様子、2) 手伝いに関する意見－性別によって手伝いのさせ方を変えるか、手伝いをさせ始める時期、手伝いの意義等についてそれぞれ選択肢を設けて回答を求めた。

## Ⅲ. 調査の結果

### (1)回収率と対象の構成

3園全体で回収は253票、回収率は71.5%であった(〔表1〕)。回収した者についての性別構成比、

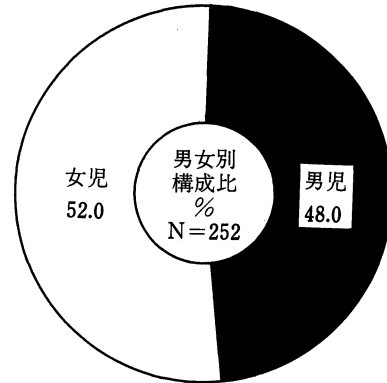
クラス別構成比，家族形態別構成比，出生順構成比，母親の就業状況別構成比をそれぞれ〔図1〕～〔図5〕に示す。

(2) 幼児の家事への興味

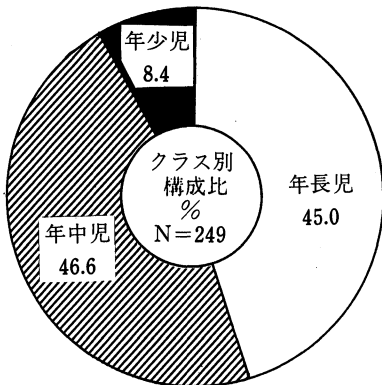
13の家事行動のそれぞれについて，幼児のしたがる様子について性別にクロス集計をしたところ有意差のあるものがみられた。そこで男女別の集計結果を〔表2〕に示す。全体で幼児の興味が高い様子のみられるものは育児（弟妹の世話）（但し下のきょうだいがある者のみ）である。これは一つには回答者が育児を広く解釈し相手をするといった行動も含めている場合があるためとも考え

〔表1〕 調査対象園と回収率 単位：票

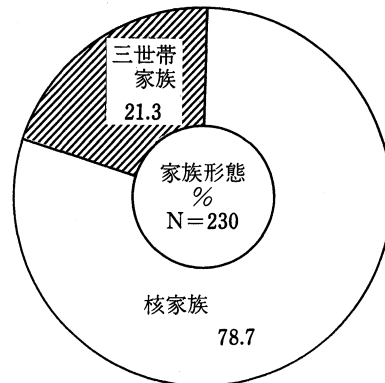
	配付数	回収数	回収率
A園(住宅地域)	132	100	75.8%
B園(市中心部)	170	106	62.4%
C園(郊外)	52	47	90.4%
計	354	253	71.5%



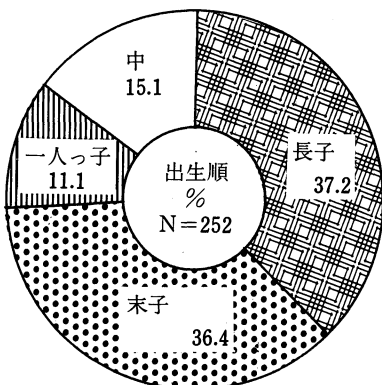
〔図1〕 男女別構成比



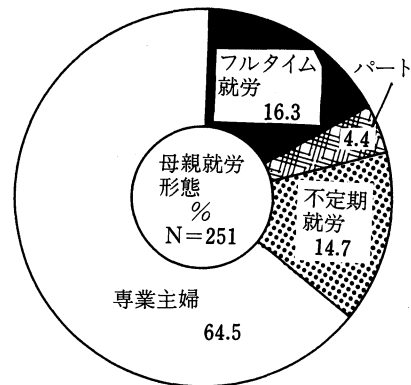
〔図2〕 クラス別構成比



〔図3〕 家族形態別構成比



〔図4〕 出生順別構成比



〔図5〕 母親就労形態別構成比

〔表2〕 幼児の家事行動をしたがる様子 — 性別

単位：人 (%)

家事行動項目	したがる様子	男	児	女	児	計	有意差 df = 3
1. 食器を洗う	現在よくやりたがる	7 ( 5.8)	13 (10.0)	20 ( 8.0)			$x^2 = 19.463$ P < 0.001
	時々やりたがる	61 (50.4)	84 (64.6)	145 (57.8)			
	以前よくしたがった	25 (20.7)	27 (20.8)	52 (20.7)			
	今までなかった	28 (23.1)	6 (17.7)	34 (13.6)			
2. 食器を拭く	現在よくやりたがる	2 ( 1.8)	9 ( 7.6)	11 ( 4.8)			$x^2 = 18.687$ P < 0.001
	時々やりたがる	26 (23.2)	47 (39.5)	73 (31.6)			
	以前よくしたがった	9 ( 8.0)	16 (13.5)	25 (10.8)			
	今までなかった	75 (67.0)	47 (39.5)	122 (52.8)			
3. 包丁を使う	現在よくやりたがる	15 (12.6)	26 (20.5)	41 (16.7)			
	時々やりたがる	53 (44.5)	58 (45.7)	111 (45.1)			
	以前よくしたがった	12 (10.1)	16 (12.6)	28 (11.4)			
	今までなかった	39 (32.8)	27 (21.3)	66 (26.8)			
4. 食事作りの手伝い	現在よくやりたがる	22 (18.5)	21 (16.8)	43 (17.6)			$x^2 = 13.217$ P < 0.01
	時々やりたがる	60 (50.4)	84 (67.2)	144 (59.0)			
	以前よくしたがった	3 ( 2.5)	6 ( 4.8)	9 ( 3.7)			
	今までなかった	34 (28.6)	14 (11.2)	48 (19.7)			
5. 洗濯物を干す	現在よくやりたがる	4 ( 3.4)	8 ( 6.3)	12 ( 4.8)			$x^2 = 18.654$ P < 0.001
	時々やりたがる	30 (25.5)	54 (42.2)	84 (34.0)			
	以前よくしたがった	24 (20.2)	34 (26.6)	58 (23.5)			
	今までなかった	61 (51.3)	32 (25.0)	93 (37.7)			
6. 洗濯物をたたむ	現在よくやりたがる	11 ( 9.6)	22 (17.5)	33 (13.7)			$x^2 = 23.015$ P < 0.001
	時々やりたがる	49 (42.6)	74 (58.7)	123 (51.0)			
	以前よくしたがった	19 (16.5)	20 (15.9)	39 (16.2)			
	今までなかった	36 (31.3)	10 ( 7.9)	46 (19.1)			
7. くつなどを洗う	現在よくやりたがる	10 ( 8.6)	10 ( 8.1)	20 ( 8.3)			
	時々やりたがる	38 (32.8)	51 (41.1)	89 (37.1)			
	以前よくしたがった	8 ( 6.9)	13 (10.5)	21 ( 8.8)			
	今までなかった	60 (51.7)	50 (40.3)	110 (45.8)			
8. おふろそうじ	現在よくやりたがる	10 ( 9.1)	6 ( 4.8)	16 ( 6.8)			
	時々やりたがる	28 (25.5)	42 (33.9)	70 (29.9)			
	以前よくしたがった	10 ( 9.1)	14 (11.3)	24 (10.3)			
	今までなかった	62 (56.4)	62 (50.0)	124 (53.0)			
9. そうじ機かけ	現在よくやりたがる	12 (10.4)	4 ( 3.2)	16 ( 6.7)			
	時々やりたがる	63 (54.8)	70 (56.0)	133 (55.4)			
	以前よくしたがった	18 (15.7)	24 (19.2)	42 (17.5)			
	今までなかった	22 (19.1)	27 (21.6)	49 (20.4)			
10. ほうきではく	現在よくやりたがる	8 ( 6.9)	13 (10.2)	21 ( 8.6)			
	時々やりたがる	65 (56.0)	69 (54.3)	134 (55.1)			
	以前よくしたがった	15 (12.9)	19 (15.0)	34 (14.0)			
	今までなかった	28 (24.1)	26 (20.5)	54 (22.2)			
11. ふきそうじ	現在よくやりたがる	6 ( 5.0)	6 ( 4.7)	12 ( 4.9)			
	時々やりたがる	52 (43.7)	68 (53.5)	120 (48.8)			
	以前よくしたがった	12 (10.1)	17 (13.4)	29 (11.8)			
	今までなかった	49 (41.2)	36 (28.4)	85 (34.6)			
12. アイロンをかける	現在よくやりたがる	2 ( 1.7)	5 ( 3.9)	7 ( 2.9)			
	時々やりたがる	18 (15.7)	37 (28.9)	55 (22.6)			
	以前よくしたがった	17 (14.8)	16 (12.5)	33 (13.6)			
	今までなかった	78 (67.8)	70 (54.7)	148 (60.9)			
13. 育児 (弟妹の世話)	現在よくやりたがる	33 (44.6)	18 (31.6)	51 (38.9)			
	時々やりたがる	23 (31.1)	29 (50.9)	52 (39.7)			
	以前よくしたがった	8 (10.8)	6 (10.5)	14 (10.7)			
	今までなかった	10 (13.5)	4 ( 7.0)	14 (10.7)			

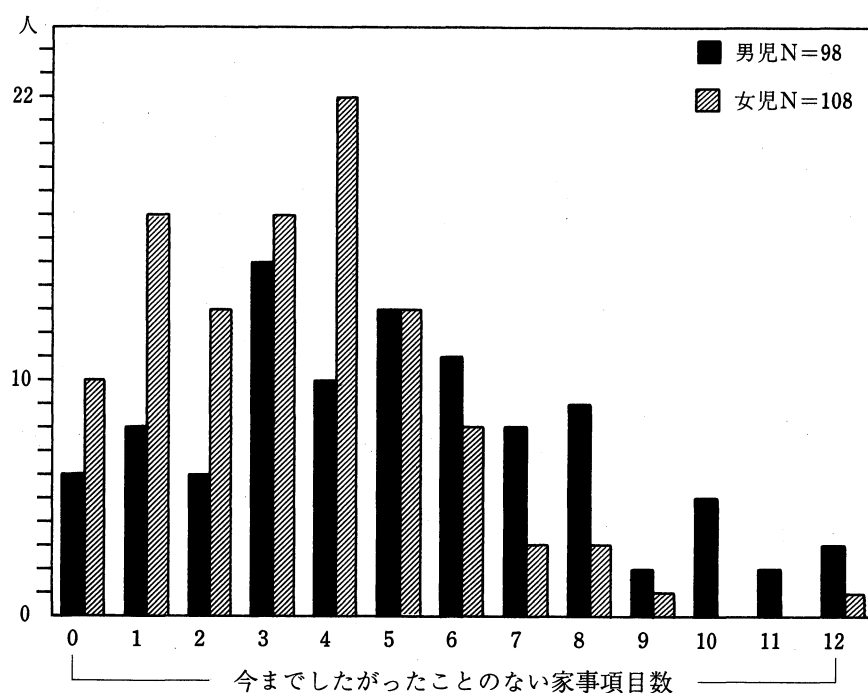
られるが、同時に自由記述の内容をみていると幼児が自分たちより幼い子供に対する興味が意外に高い様子を感じられた。男児と女児で有意な差ではなかったが、「現在よくやりたがる」の選択は男児の方が女児より高い。興味の高い項目として次に続いているのは「食器を洗う」「洗濯物をたたむ」である。逆に幼児の興味が相対的に低いと思われるものとしては、「今ま

〔表3〕 したがる時は自分からか一親がしている時か 単位：人（％）

	自分から	親がしている時	両方	NA
1. 食器を洗う	57(26.3)	92(42.4)	68(31.3)	36
2. 食器を拭く	24(22.2)	60(55.6)	24(22.2)	145
3. 包丁を使う	34(19.0)	108(60.3)	37(20.7)	74
4. 食事作りの手伝い	38(19.9)	116(60.7)	37(19.4)	62
5. 洗濯物を干す	20(13.2)	109(71.7)	23(15.1)	101
6. 洗濯物をたたむ	36(18.5)	128(65.6)	31(15.9)	58
7. くつなどを洗う	40(32.5)	67(54.5)	16(13.0)	130
8. おふろそうじ	39(35.1)	57(51.4)	15(13.5)	142
9. そうじ機かけ	27(14.3)	133(70.4)	29(15.3)	64
10. ほうきではく	50(27.3)	95(51.9)	38(20.8)	70
11. ふきそうじ	35(22.2)	98(62.0)	25(15.8)	95
12. アイロンをかける	8(8.3)	82(85.4)	6(6.3)	157
13. 育児(弟妹の世話)	63(56.3)	11(9.8)	38(33.9)	141

でしたがる様子がなかった」の選択が50%をこえた項目を挙げると全体では「食器を拭く」「おふろそうじ」「アイロンをかける」の3項目であり、男児だけが半数を超え女児では半数の選択になっていないものは「食器を拭く」「洗濯物を干す」「くつなどを洗う」の3項目である。逆に女児のみが半数以上で「今までしたがる様子がなかった」を選択している項目はなかった。

幼児がしたがるのは親がその家事をしている時かどうかの質問に対する結果（「今までしたがる様子はなかった」の回答をした者を除く）を〔表3〕に示す。育児（弟妹の世話）については「自分からやりたがる」の割合が特に高いが全体としては親がしているときにやりたがる方が自分から



〔図6〕 今までにしたがることのない家事の項目数—性別

したがる場合より多いよ  
うである。性別による傾  
向は、「くつなどを洗  
う」1項目のみに有意差  
がみられた ( $\chi^2 = 11.49$   
 $P < 0.01$ )。

また一人ひとりの子供  
の様子をみるために、育  
児を除く12項目全項目に  
回答をした206名につい  
て、一人ひとりについて  
「今までしたがる様子は  
なかった」と回答した項  
目数を調べてみると  
(〔図6〕)、12項目全てに  
ついて「今までしたがる  
様子はなかった」と回答  
した者は男児3名女児1  
名計4名(1.9%)であ  
り、反対にしたがる様子  
が何らかの時期にはみら  
れたことが12項目全てに  
あったと考えられる幼児  
は男児6名女児10名合  
わせて16名(7.8%)であ  
った。

(3) 幼児が家事的な行動  
をしたがった場合の親の  
対応

「今までしたがる様子  
はなかった」と回答した  
者を除いた、子供がした  
がったことに対する親の  
対応は〔表4〕のよう

〔表4〕 幼児の家事行動に対する親の対応

単位：人 (%)

家事行動項目	親の対応	男児	女児	計
1. 食器を洗う	やらせる	24(24.7)	26(20.6)	50(22.4)
	できる範囲で	53(54.6)	78(61.9)	131(58.7)
	あまりさせない	15(15.5)	19(15.1)	34(15.3)
	させない	5(5.2)	3(2.4)	8(3.6)
2. 食器を拭く	やらせる	14(28.6)	26(33.3)	40(31.5)
	できる範囲で	24(49.0)	42(53.9)	66(52.0)
	あまりさせない	5(10.2)	4(5.1)	9(7.1)
	させない	6(12.2)	6(7.7)	12(9.5)
3. 包丁を使う	やらせる	14(16.5)	18(16.8)	32(16.7)
	できる範囲で	36(42.4)	42(39.3)	78(40.6)
	あまりさせない	19(22.4)	29(27.1)	48(25.0)
	させない	16(18.8)	18(16.8)	34(17.7)
4. 食事作りの手 伝い	やらせる	32(37.2)	35(31.0)	67(33.7)
	できる範囲で	49(57.0)	69(61.1)	118(59.3)
	あまりさせない	3(3.5)	6(5.3)	9(4.5)
	させない	2(2.3)	3(2.7)	5(2.5)
5. 洗濯物を干す	やらせる	19(30.7)	36(36.0)	55(34.0)
	できる範囲で	35(56.5)	58(58.0)	93(57.4)
	あまりさせない	4(6.5)	4(4.0)	8(4.9)
	させない	4(6.5)	2(2.0)	6(3.7)
6. 洗濯物をたた む	やらせる	39(48.2)	81(69.2)	120(60.6)
	できる範囲で	39(48.2)	35(29.9)	74(37.4)
	あまりさせない	2(2.5)	0(0.0)	2(1.0)
	させない	1(1.2)	1(0.9)	2(1.0)
7. くつなどを洗 う	やらせる	37(56.9)	50(59.5)	87(58.4)
	できる範囲で	21(32.4)	23(27.4)	44(29.5)
	あまりさせない	2(3.1)	5(6.0)	7(4.7)
	させない	5(7.7)	6(7.1)	11(7.4)
8. おふろそうじ	やらせる	24(43.6)	28(40.0)	52(41.6)
	できる範囲で	23(41.8)	26(37.1)	49(39.2)
	あまりさせない	7(12.7)	13(18.6)	20(16.0)
	させない	1(1.8)	3(4.3)	4(3.2)
9. そうじ機かけ	やらせる	37(40.2)	48(47.5)	85(44.0)
	できる範囲で	40(43.5)	40(39.6)	80(41.5)
	あまりさせない	13(14.1)	11(10.9)	24(12.4)
	させない	2(2.2)	2(2.0)	4(2.1)
10. ほうきではく	やらせる	48(54.6)	66(65.4)	114(60.3)
	できる範囲で	35(39.8)	30(29.7)	65(34.4)
	あまりさせない	5(5.7)	4(4.0)	9(4.8)
	させない	0(0.0)	1(1.0)	1(0.5)
11. ふきそうじ	やらせる	36(52.2)	58(59.8)	94(56.6)
	できる範囲で	29(42.0)	33(34.0)	62(37.4)
	あまりさせない	3(4.4)	3(3.1)	6(3.6)
	させない	1(1.5)	3(3.1)	4(2.4)
12. アイロン をかける*	やらせる	2(3.9)	6(8.7)	8(6.7)
	できる範囲で	8(15.7)	24(34.8)	32(26.7)
	あまりさせない	12(23.5)	8(11.6)	20(16.7)
	させない	29(56.9)	31(44.9)	60(50.0)
13. 育児(弟妹の 世話)	やらせる	33(55.0)	35(66.0)	68(60.2)
	できる範囲で	26(43.3)	18(34.0)	44(39.0)
	あまりさせない	1(1.7)	0(0.0)	1(0.9)
	させない	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)

注) \*アイロンをかける：男児と女児で有意差有  $\chi^2 = 8.355$   $P < 0.05$

あった。全体に「包丁を使う」「アイロンをかける」を除き、多くの場合子供がしたがったらせていると答えている。性別による扱いに有意な差のあったものは「アイロンをかける」1項目のみであった。この項目については「子供のみでいる前ではかけないようにしている」と述べ回答を保留した保護者もあった。

#### (4) 現在の手伝いの分担状況と保護者のお手伝いに関する意見

手伝いとして分担していることがあるか否かの結果を、性別、出生順別、家族形態、母親の就業状態別に集計したものが〔表5〕～〔表8〕である。全体としては分担が「ある」との回答が55.3%と半数強であるが、今回の調査では性別等による有意な差はなく偏りはあまりみられない。

〔表5〕 お手伝いの分担 — 性別

		ある	ない
男	児	60(53.1)	53(46.9)
女	児	70(57.9)	51(42.2)
計		130(55.6)	104(44.4)

単位：人 (%)

〔表7〕 お手伝いの分担 — 家族形態別

		ある	ない
核	家族	98(56.3)	76(43.7)
三	世代家族	24(53.3)	21(46.7)

単位：人 (%)

〔表6〕 お手伝いの分担 — 出生順

		ある	ない
長	子	42(47.2)	47(52.8)
末	子	45(54.9)	37(45.1)
一	人っ子	17(65.4)	9(34.6)
中	の子	25(67.6)	12(32.4)
計		129(54.9)	106(45.1)

NA：16 単位：人 (%)

〔表8〕 お手伝いの分担 — 母親の就労別

		ある	ない	NA = 18
仕事を持っている	専業主婦	50(64.1)	28(35.9)	
		79(51.0)	76(49.0)	

注) 仕事を持っている：全日、パート、内職を含む

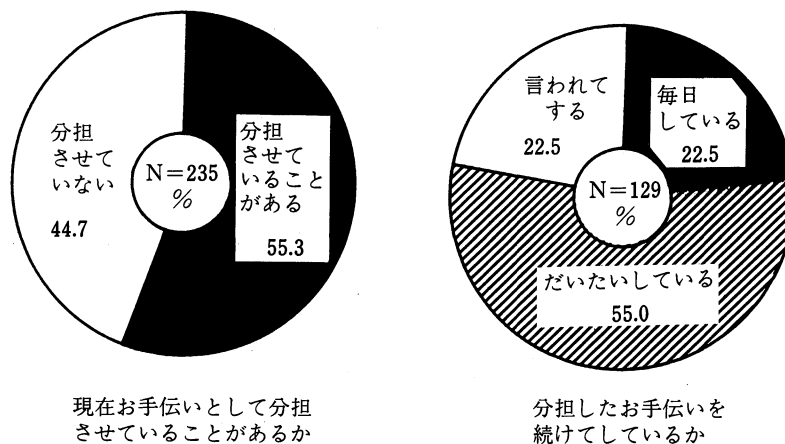
男児と女児でお手伝いのさせ方を変えるか否かについては全体で61.7%、6割強の保護者が全く同じにさせると回答しているが、それ以外の4割弱は何らかの形で男児と女児でさせ方を変えると回答している(〔表9〕)。この質問に対しては、その家庭の子供が女

児のみ、男児のみであるとして回答を保留する保護者がいた。この質問結果も性別等による有意な差はみられなかった。分担している手伝いの内容については自由記述によって回答を求めたが、数として最も多かったのは、食後の片づけ(食器を台所まで運ぶ・食器を拭く・洗うを含む)97名であり、次は食事の準備の手伝い(配膳や食事を並べる・運ぶを含む)36名であった。また本やおも

〔表9〕 お手伝いのさせ方 — 男女で変えるか — 性別

		同じにさせる	違う仕事を	男児には強制しない	年齢によって変わる
男	児	69(64.5)	15(14.0)	7(6.5)	16(15.0)
女	児	55(59.1)	10(10.8)	3(3.2)	25(26.9)
計		124(62.0)	25(12.5)	10(5.0)	41(20.5)

注) 男の子には全くさせない：選択数0 単位：人 (%)



〔図7〕 手伝いの分担とその実行

ちゃ、自分の衣類や部屋の片づけを手伝いとして挙げている回答も10名あった。先の13項目に挙げなかったものとして、

- ・新聞を取ってくる、
- ・動植物の世話、
- ・カーテンの開け閉め、
- ・おつかい、
- ・ちり捨ての手伝い、
- ・はきものをそろえる等が挙げがっていた。

保護者の考え方として、お手伝いをさせるべきか否かの質問に対する結果は〔表10〕と〔表11〕である。全体としては「させるべきである」「させた方がよい」合わせて97%であるが、出生順で見ると長子と一人っ子でやや積極的なさせるべきとの意見が、中の子供や末子に比べ少ない様子が見える。また、手伝いを始める時期については全体で78.7%が幼児期からと回答している（〔表12〕）。この質問結果も、「幼児期から」を選択した者の割合が、長子と一人っ子で末子と中の子供に比べてやや低い。

子供にとっての手伝いの意義を尋ねた質問に対する選択の最も多かったものは

〔表10〕 子供にお手伝いをさせた方が良いか - 性別

	させるべき	させた方が 良い	どちらで も良い	わからない
男 児	48(41.0)	64(54.7)	4(3.4)	1(0.9)
女 児	62(49.6)	60(48.0)	3(2.4)	0(0.0)
計	110(45.5)	124(51.2)	7(2.9)	1(0.4)

注) させる必要はない: 選択数0

単位: 人 (%)

〔表11〕 お手伝いはさせるべきか - 出生順 単位: 人 (%)

	させるべき	させた方が 良い	そ の 他
長 子	32(36.8)	51(58.6)	4(4.5)
末 子	44(49.4)	42(47.2)	3(3.4)
一人っ子	13(46.4)	15(53.6)	0(0.0)
中 の 子	22(57.9)	15(39.5)	1(2.6)
計	111(45.7)	124(51.0)	8(3.3)

注) その他: どちらとも言えない+その他

NA: 10

〔表12〕 お手伝いを始める時期 - 出生順 単位: 人 (%)

	幼児期から	就学して から	できるよう になったら	特になし
長 子	62(72.9)	7( 8.2)	8(9.4)	8( 9.4)
末 子	73(85.9)	6( 7.1)	2(2.4)	4( 4.7)
一人っ子	20(71.4)	4(14.3)	0(0.0)	4(14.3)
中 の 子	31(81.6)	4(10.5)	2(5.3)	1( 2.6)
計	187(78.9)	21( 8.9)	12(5.1)	17( 7.2)

NA: 16



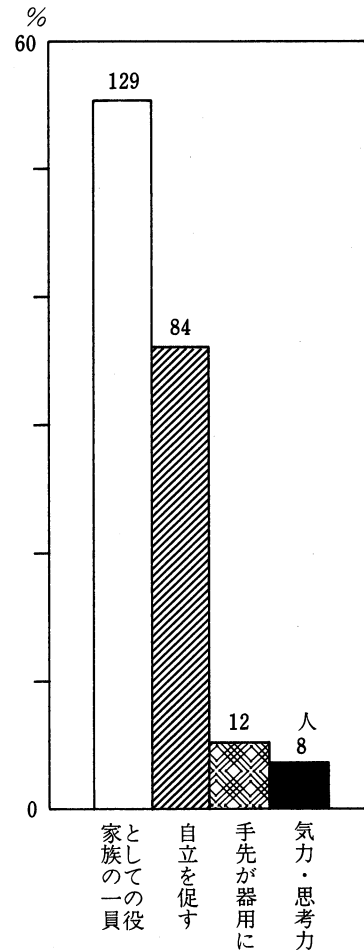
「家族の一員としての役を果たす」であり、55.4%半数強の者が選択している。次には「自立を促す」36.1%，その他の回答はずっと低くなっている（〔図8〕）。

### Ⅲ. 自由記述回答を含めての考察とまとめ

幼児期には殆どの子供が何らかの形で自発的に家事的な行動に興味をもってしがる様子を見せると考えられる。各家事行動についての自由記述の内容をみると、今回調査した年齢では、単純な大人のまねというよりも、扱う物や作業への学習的な興味を感じられた。例えば、物の形や大きさなどを皿に積み上げたり洗濯物をたたむ作業の中で比べたり、食器の汚れや泡が落ちていく様子や切ったり混ぜたりすることによる形の変化、また、他ではあまりすることのない、絞る、コップの中に布巾を入れて廻して拭くなどといった動作に興味を持って自分で実際に試している様子が見られる。しかし遊びとの区別が子供の中ではあまりはっきりしていないことも保護者は認めている。こうした「手伝い」は大人にとってはむしろ邪魔になったり、時には却って手数を増やすことになる場合もある。子供の心を傷つけないために子供が寝てからしなすこともすることはよく聞くことであるが、今回の調査でもそうした配慮をしているとの例

があった。同時に、保護者の8割が幼児期から手伝いを始めさせるのが良いと考えており、半数が分担を決めている。できるものをさせるという考え方もあるが、興味をもって自分からしがるから積極的に取り組み、積極的に取り組むからこそその体験の中で習熟していけるという面が幼児では大きい。現代の子供たちに見られる不器用さの一端は、こうした家事以外ではなかなか経験できない、習熟するための作業をする機会が少なくなっていることの一部に含まれていると考えられる。

また、食事の支度を母親の病気をきっかけとしてするようになり、してみると意外にできるので驚いたと同時に今もよく母親の仕事を分担してくれることを感動しているとの例もあった。こうした手伝いは、愛他的な行動として意義づけることもできるが、例えば自分の切った野菜を食事の時に探して食べるといった子供の様子も併せ考えるともう少し違ってニュアンスで捉えることができるように思われる。大人と同じような行動をして誇らしい気分になっている、とか自信をつけているという表現をしている保護者もいるが、子供は自分の行動の結果が他の遊びの中で持つものとは異なる意義を持っていることを感じているのではないかと思われる。この意義とは延長線上では、



〔図8〕 お手伝いの意義

集団の一つである家庭が、集団として維持され機能しさらに先では発展へとつながる役割を集団の一員として担っているということを原初的な形で幼児なりに微妙にはあっても体験しているということである。所属する集団に欠けている必要な役割に自分で気づいて自発的に担うという行動も現代の子供たちに欠けてきていると言われている。幼児期にこうした行動の萌芽が存在すると思えることができるのではないかとと思われる。家庭での手伝いを、大人から与えられる、積極的にしたくはないけれどもするものという位置づけではなく、子供が興味を持ってする行動が他の行動とは異なり「家族の一員としての役を果たす」意義をもつものとして位置づけることが可能ではないかということ、今回の調査によって得ることができた。

今後はこうした観点での子供の周囲の者の配慮・指導の実際の在り方を検討していくことが必要である。

調査に快くご協力下さいました、鹿児島市内の3つの幼稚園、また園児の保護者の皆様に深く感謝いたします。

#### 参 考 文 献

- 1) 宮本常一 日本の子供達 日本人の生活全集9 岩崎書店 1956
- 2) 無藤隆編 子供の遊びと生活 新・児童心理学講座11 金子書房 1991
- 3) 教育基礎情報調査会編 教育アンケート収録年鑑1986年度版 第2巻 家庭教育・しつけ 主婦の科学社
- 4) 子ども調査研究所 子ども調査資料集成第II集 1987
- 5) 日本総合愛育研究所編 1991/92 日本子ども資料年鑑 中央出版 1991
- 6) 青柳肇 母子寮の母親の性別しつけについて 母子福祉に関する基本的研究昭和54年度調査研究II 79-92
- 7) 柏木恵子 日米の母親の、幼児への発達期待 総合乳幼児研究 vol2 no2 1978 同文書院 15-21
- 8) 村山貞雄編 日本の幼児の成長・発達に関する総合調査—保育カリキュラムのための基礎資料サンマーク出版 1987